

平成 11 年度試験研究成果

区分	指導	題名	飼料用とうもろこし推奨品種の改廃と早晩性配置		
<p>[要約] 種子の流通中止等の理由から本県の飼料用とうもろこし推奨品種から 4 品種を外し、平成 12 年度より新たに編入する品種を加えて極早生 3 品種、早生 1 品種、中生 2 品種、晩生 8 品種の早晩性配置とする。</p>					
キーワード	とうもろこし	推奨品種	早晩性	畜産研究所飼料生産研究室	

1. 背景とねらい

本県には現在、飼料用とうもろこしが 6, 800 ha 作付けされており、栽培されている品種も極早生種～晩生種まで極めて多品種にわたっている。とうもろこしの品種選定にあたっては収量性や倒伏性、耐病性等の他、その地域の気温や標高等を考慮して確実に黄熟期に達する品種を選定することが重要である。

そこで本県では奨励品種（国等による育成品種）、推奨品種（メーカー育成品種）を選定し現地での指導に活かしているが、今回推奨品種の一部が流通中止になったことに伴い推奨品種の改廃を進めるとともに早晩性の配置を見直す。

2. 技術の内容

(1) 改廃品種

ア 販売中止品種

早生品種：ニューデント100日（N3624）

中生品種：ゴールドデントXL61（XL61）

晩生品種：サレージーンPX77A（PX77A）

イ 流通量の少ない品種

晩生品種：ロデントコーン（YDC）

(2) 飼料用とうもろこしの早晩性配置

推奨品種の改廃及び編入に伴う平成 12 年度からの早晩性配置は以下のとおりである。

また、下線を付した品種が平成 12 年度編入予定品種である。

なお、適応地帯は別表を参照のこと。

極早生品種（有効積算温度 1150 未満）

ロイヤルデント90E 90（TH9060）、ニューデント90日（LG2290）、ニューデント95日（DK405）

早生品種（有効積算温度 1150～1200 未満）

ゴールドデントDK474、〔ニューデント95日（DK405）〕

中生品種（有効積算温度 1200～1250 未満）

スノーデント108（DK542）、サレージーンNS68

晩生品種（有効積算温度 1250 以上）

ロイヤルデントTX330（TX330）、ナスタルク 那交 777、マフィコーン 8344（Garst8344）、クミアデント 8388（Garst8388）、ハイオア 3352（P3352）、セリア、スノーデント 119（DK652）、32K61

3. 普及上の留意事項

(1) 一代雑種品種であるため、自家採種はできない。

(2) 栽培管理についてはこれまでと同様に牧草・飼料作物生産利用指針を基本とすること。

4. 当該事項に係る試験研究課題

[草地飼料 1] 1 - (1) - ア とうもろこし系統適応性検定試験

[草地飼料 1] 1 - (2) - ア とうもろこし奨励品種決定基本調査

5. 参考資料・文献

(1) 昭和 62 年度指導上の参考事項「サイレージ用とうもろこしの総合評価法」

(2) 岩手県農政部「牧草・飼料作物生産利用指針」平成 8 年 3 月

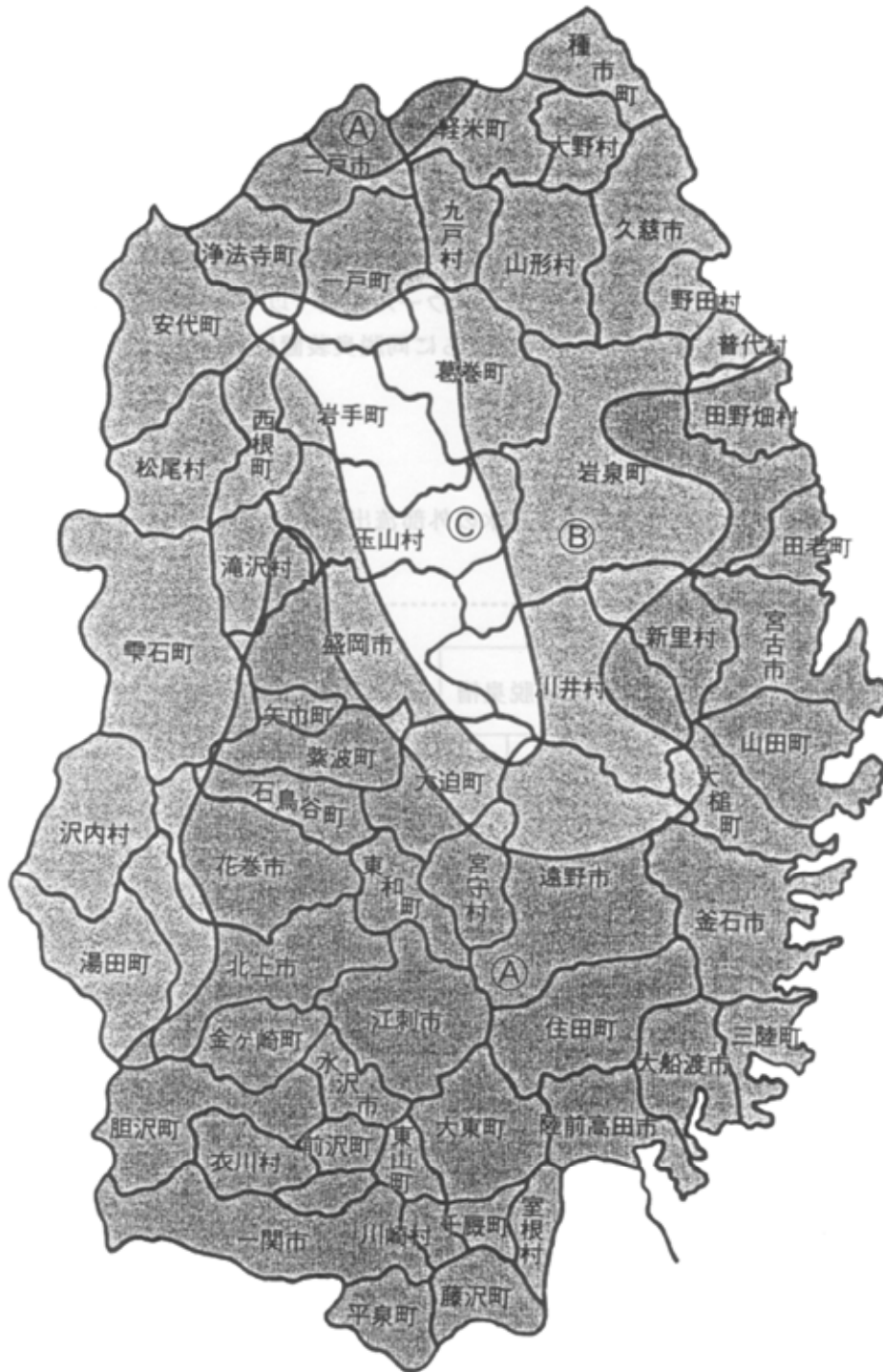
(3) 岩手県農政部「飼料作物優良品種特性表」平成 11 年 3 月

(4) 農林水産省技術会議事務局・農林水産省草地試験場

「飼料作物系統適応性検定試験実施要領（改訂 4 版）」平成 11 年 4 月

(別表)

飼料用とうもろこしの適応地帯区分



凡例 A : 中・晩生地帯
B : 早生地帯
C : 極早生地帯